

萩原朔太郎賞決まる 松浦寿輝さんの「吃水都市」

「第17回萩原朔太郎賞」は、松浦寿輝さんの『吃水都市』に決定。ここでは松浦さんのプロフィールや喜びのコメントなどを紹介。賞の贈呈式と記念講演は11月7日(土)に前橋文学館で行います。

問い合わせは 文化国際課 ☎898-6522



9月3日、選考委員5人が本市に集まり受賞作品を選出。最終候補作品6点の中から、松浦寿輝さんの詩集『吃水都市』が栄えある萩原朔太郎賞に決まりました。

最終選考に残った候補者・作品名・出版社は次のとおりです。(敬称略) 作品の50音順)

- 河津聖恵『新鹿』(思潮社)
- 守中高明『系族』(思潮社)
- 松浦寿輝『吃水都市』(思潮社)
- 田口犬男『聖フランチェスコの鳥』(思潮社)
- 長田弘『世界はうつくしいと』(みすず書房)
- 松尾真由美『不完全協和音』(思潮社)

松浦さんのプロフィール

昭和29年東京都生まれ。東京大教養学部卒。同大学院仏語修士課程修了。パリ第三大文学博士号取得。東京大博士号取得。東京大大学院教授。詩人。小説家。昭和62年に詩集『冬の本』で高見順賞、平成10年に評論・研究書『知の庭園―一九世紀パリの空間装置』で芸術選奨文部大臣賞、平成12年に小説『花腐し』で芥川賞受賞。

受賞コメント

このたび名誉ある賞をいただけることになり、たいへんうれしく存じます。



松浦 寿輝さん

5人の選考委員

敬称略(50音順)
入沢康夫(詩人、評論家、仏文学者)、岡井隆(歌人、医師)、白石かずこ(詩人、評論家、エッセイスト)、高橋源一郎(作家、評論家)、平田俊子(詩人、作家)。

「吃水都市」より抜粋

南国
夕暮れ、いつもの時刻だ、暗くかゞよふ青空は重い水のやうに鎮まつて、そこからいくすぢものすぢしい感情が、木々の梢へ、さらに枝へ、幹へ、その内部の複数の管をつたつて、ゆつくりと流れ落ち、滴り落ち、根へ、その無数に分かれた鬚根へ、そして地面へと染み込んでゆく、水が、光が落ちてゆく西新宿の夕暮れ、いつもの時刻、しかし今日はひた／＼と歩かう、切れた電線がぶらさがつて舗道に垂れ、剥き出しになつた銅線の端からばら／＼と青白い火花を発してゐる、歩き出す、半ば倒壊したまゝ放つておかれてゐる住友ビル跡の廃墟から歩き出し、西へ／＼と、ひた／＼と、ひた／＼と、他人には聞こえない自分の足音にだけ耳をそばだて、

(後略)

選考委員選評より

舞台は想像上の東京。もしくは作者の頭の中にある東京。作者がその都市を巡る詩です。全体に回想のようでもあり、幻や夢想のようでもある。非常に興味深く読んだ、レベルの高い詩集です。